

平成 30 年度第 3 回富津市地域公共交通会議 議事録 (要旨)

1 会議の名称	平成 30 年度第 3 回富津市地域公共交通会議
2 開催日時	平成 31 年 1 月 29 日 (火) 午後 3 時 10 分～午後 4 時 8 分
3 開催場所	富津市役所 502・503 会議室
4 議題事項	(1)公共交通空白地有償運送の登録更新について (2)地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)について
5 出席者名	富津市地域公共交通会議委員 (14 名) 富津市副市長 小泉 義行 日東交通(株) 加藤 正之 一般社団法人千葉県タクシー協会 かずさ交通(株) 奥瀬 亮彦 東京湾フェリー(株) 寺元 敏光 富津地区区長会長 鹿島 榮 天羽地区区長会長 斎藤 啓一 国土交通省関東運輸局千葉運輸支局 宮澤 豊 一般社団法人千葉県バス協会専務理事 成田 斉 日東交通労働組合 富津支部長 藤寄 晋作 千葉県君津土木事務所調整課長 榎本 秀典 千葉県富津警察署交通課長 青井 崇 千葉県総合企画部交通計画課主事 坂本 真里佳(代理出席) 君津市企画政策部次長 鈴木 広夫 日本大学理工学部交通システム工学科 教授 藤井 敬宏 事務局 (6 名) 富津市長 高橋 恭市、総務部長 白石 久雄、 総務部次長 秋嶋 隼人、企画課長 坂本 秀則 企画課長補佐 樋口 峰昭、主任主事 赤井 聖
6 公開又は 非公開の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 公開の理由	富津市情報公開条例第 2 3 条第 1 項に該当
8 傍聴人数	0 人 (定員 10 人)
9 所管課	総務部企画課公共交通係 電話 0439-80-1229
10 議事録 (議事の要旨)	別紙のとおり

第3回「富津市地域公共交通会議」議事録

発言者	発言内容
小泉会長	<p>1 開会</p> <p>ただ今から平成 30 年度第 3 回富津市地域公共交通会議を開始します。</p> <p>本日の会議では、議題の説明員として、NPO 法人わだち、千倉理事長にこの後、公共交通空白地有償運送の登録更新について、説明がありますので、お聞き取りいただきますようお願いいたします。</p> <p>なお、協議後、採択を行いますのでよろしく申し上げます。</p> <p>初めに、本日の出席状況の報告等、事務局から申し上げます。</p>
事務局	<p>本日の出席状況を報告します。</p> <p>出席者 14 名、欠席者 2 名です。</p> <p>従いまして、富津市地域公共交通会議 設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、半数以上の出席がありますので、会議が成立していることを報告します。</p> <p>なお、千葉県交通計画課 池田委員の代理として、千葉県交通計画課 坂本 真里佳様が出席しています。</p> <p>続きまして、会議の公開について説明します。</p> <p>富津市情報公開条例第 23 条第 1 項の規定により、本会議では、傍聴者の受入れ及び会議の議事結果を公表します。</p> <p>また、会議録作成のため、録音機を使用しますので、ご了承願います。</p>
小泉会長	<p>2 市長挨拶</p> <p>それでは、次第に沿って進めます。</p> <p>高橋市長より、ご挨拶をお願いします。</p>
高橋市長	<p>・・・市長挨拶・・・</p>
小泉会長	<p>委員紹介及び署名委員の指名</p> <p>千葉県交通計画課の池田委員以外の 15 名の委員は、1 月 31 日をもって委員の任期が終了します。</p> <p>2 月 1 日から引き続き、2 年間の任期をお願いするにあたり、事前に皆様から、委員推薦書または承諾書をご提出いただき、ありがとうございました。</p>

	<p>富津市地域公共交通会議の委員として、公共交通を必要とする人のための持続可能な公共交通網の形成に向け、一緒に取り組んでいただきたく、引き続き、ご協力くださいますようお願いいたします。</p> <p>なお、委嘱状については、自席配布とさせていただきますので、ご了承ください。</p> <p>次に、副会長については、日東交通株式会社、運輸部長 加藤委員に務めていただいておりますが、引き続きお願いいたたく、指名します。</p> <p>続きまして、会議録署名委員を指名させていただきます。</p> <p>鈴木委員と藤井委員をお願いいたします。</p> <p>3 議題</p> <p>公共交通空白地有償運送の登録更新について</p> <p>それでは、次第の3、議題に入ります。</p> <p>NPO法人わだち、千倉理事長は、説明員の席に移動をお願いします。</p> <p><説明員席に移動></p> <p>初めに、議題の趣旨等について事務局から説明をお願いします。</p> <p>事務局</p> <p>議題の趣旨について説明します。</p> <p>前回会議から、約3か月という短い期間で、再び同じような議題を審議することに疑問を感じる委員もいらっしゃるかと思います。</p> <p>NPO法人わだちは、現在公共交通空白地有償運送と福祉有償運送を実施していますが、この2つの運送をあわせて自家用有償旅客運送といたします。</p> <p>この自家用有償旅客運送は、1回の登録について有効期間があり、1団体につき1つの有効期間となります。</p> <p>NPO法人わだちは、前回会議より以前から福祉有償運送を実施しており、その有効期限は平成31年4月17日までとなっていることから前回会議で協議が調いました、公共交通空白地有償運送についても、4月17日が有効期限となります。</p> <p>このため、まもなく期限を迎え、登録更新の申請については、協議を調える必要があることから、ご審議いただくものです。</p> <p>小泉会長</p> <p>事務局の説明について、ご質疑・ご意見がありましたら、お願いします。</p>
--	---

<p>NPO法人わだち</p>	<p>ご質疑等、無いようですので、議題の公共交通空白地有償運送の登録更新について、NPO法人わだち千倉理事長から説明をお願いします。</p> <p>NPO法人わだち理事長の千倉淳子です。</p> <p>今、事務局から説明がありましたが10月に委員の皆様にご審議いただき、数ヶ月後に再びお運びいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>先ほど説明がありましたとおり、NPO法人わだちが福祉有償運送を始めたのが平成24年で、自家用有償旅客運送は、1回目の更新が2年、2回目以降は3年おきの更新となっており、今年がNPO法人わだちの更新時期となっております。</p> <p>このため、短い期間で、再び皆さまのお時間をいただくことを大変恐縮に思っています。</p> <p>公共交通空白地有償運送については、12月から試行運転を開始しています。</p> <p>前回会議で、運送の実施について認めていただき、千葉運輸支局に申請しましたところ、登録が完了したのが、12月の半ばを過ぎた時期でしたので、実際に運行を開始したのが20日以降ですので、約1か月が経過し、その間に40名程の皆さまにご利用いただいています。</p> <p>前回会議後に、地元で、こういった運行をしますよ、というプレゼンテーションという意味の説明会を開催しましたところ、竹岡という小さな町ではありますが、普段外に出ないような高齢者の方から、地域の皆さままで乗り合って、30人を超える、1つのコミュニティセンターの部屋に入りきれない程の方に参加していただきまして、関心の高さと身の引き締まる思いで12月に入ったところです。</p> <p>今回の説明については、前回の内容と大きく変わるところはありませんが、資料1の最後のページに運行経路の地図があり、前回会議と少し訂正がありますので説明します。</p> <p>赤い太矢印が、実際に運行している経路になります。前回会議では、赤い矢印の近くにある紫色の矢印で説明しました。地図が細かくて私も見落としてしまったことは大変申し訳なく思っております。</p> <p>小さな路地の違いではありますが、天羽マリーンヒルは、住宅地で路地が入り組んでいます。紫矢印の山の上に上がっていく道と、赤矢印の</p>
-----------------	---

	<p>トンネルを抜ける道があり、大変込み入ってしまして線の引き違いがありました。大変申し訳ありませんでした。</p> <p>実際は、赤矢印が正しく、山の上に上らず天羽マリーンヒルの中心を走行しています。</p> <p>次に、天羽マリーンヒルの下、資料の中ほどに山入橋と大釜戸地区がありますが、前回では山入橋がある山入地区と大釜戸地区をまとめて大釜戸地区と表示していましたが、山入地区の入口まで車を回さないと山入地区にお住まいの方が利用できないということで、現在は、山入橋まで入ってUターンして戻ってくる形で運行しています。</p> <p>こちらも、後付になり、地図の訂正がされていなかったこと、大変申し訳ありませんでした。</p> <p>前回会議からの修正点は以上になります。</p> <p>運行が始まってから1か月ですが、高齢者の方がどのように利用申請を出して、どうやって乗っていけばよいのか、どのような路線を走っているのかなど、周知が不十分という様子がありまして、4月からの本格運行に向けて、2月、3月に周知徹底を図り、地元の皆さまにお知らせを頑張っていこうと動き出したところです。</p> <p>前回会議と重なる部分については説明を省略しますが、ご不明な点については、お答えしますのでよろしくお願ひします。</p>
小泉会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>説明が終了しましたので、ただいまのNPO法人わだちの説明について、ご質疑等がありましたら、お願ひします。</p>
委員	<p>ご質疑等、無いようですので、議題の公共交通空白地有償運送の登録更新について、採決をしたいと思ひます。</p> <p>公共交通空白地有償運送の協議について、原案のとおりとすることに、賛成の方は、挙手をお願ひします。</p>
小泉会長	<p>【挙手全員】</p> <p>賛成全員で可決されましたので、本会議において、協議が調ったことといたします。</p> <p>後日、事務局から「地域公共交通会議において協議が調ったことを証する書類」をNPO法人わだちに交付しますので、関東運輸局千葉運輸支局に、自家用有償旅客運送の登録更新の申請を行って下さい。</p>

小泉会長	<p>NPO法人わだちの千倉理事長は、お疲れ様でした。席の移動をお願いします。</p>
NPO法人わだち	<p>ありがとうございました。</p> <p><席の移動></p>
小泉会長	<p>地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)について</p>
事務局	<p>続いて、議題の2 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について事務局から説明願います。</p>
事務局	<p>議題の2 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価計画推進に係る事業について説明します。</p> <p>昨年度、地域公共交通網形成計画を策定し、今年度の計画推進の一つとして、国の地域公共交通確保維持改善事業費補助金の交付を受け、公共交通マップの作成及びワークショップの開催を進めてきました。</p> <p>国の補助金交付要綱、第3条第5項において、「協議会は、補助対象事業ごとに補助対象事業について評価を行い、その結果について、地方運輸局又は地方航空局の長に報告しなければならない。」と定められていることから、法定協議会である富津市地域公共交通会議において、補助金の交付を受けている事業の評価を行うものです。</p> <p>委員の皆さまには、事務局作成の評価案を、富津市地域公共交通会議の評価とすることとしてよろしいかご確認をお願いします。</p> <p>最初に、公共交通マップと、ワークショップの開催について、説明します。</p> <p>富津市公共交通マップをご覧ください。</p> <p>マップの構成としまして、富津市公共交通マップと記載してある面の左上の「公共交通を使おう！」は、公共交通の利用促進について、記載しました。</p> <p>その下に「路線バスの乗り方・降り方」について</p> <p>左下に「主要施設の最寄りバス停」、これは、市内施設へ路線バスで行く際に、どの路線に乗って、どこで降りればよいかを示したものです。</p>

右上は、「主要バス停一覧図、主要バス停間の所要時間」を表示したものの、右下に、「公共交通利用モデルルート」、イオンモール富津へ行く場合のモデルルートを記載しています。計画策定時の市民アンケート調査から、イオンモール富津への利用意向が高かったため、モデルルートとして、記載しました。

裏面をご覧ください。

裏面は、公共交通の総合マップとして、市内を運行する公共交通の情報を掲載しています。積極的に公共交通をご利用いただくため、お出かけの際には、このマップをご活用いただきたいと思います。

そのため、ゆっくりご覧いただき、また、お手元において置けるように、3月の自治会回覧で、各世帯への配布を予定しています。

また、公共施設及びご協力いただける商業施設、コンビニエンスストアに配布を予定しています。

公共交通マップについては、以上です。

続きまして、竹岡地区の公共交通を考えるワークショップの結果、こちらの資料をご覧ください。

竹岡地区の公共交通を考えるワークショップの結果の資料をご覧ください。

竹岡地区の方を対象として募集したところ、11名の方に参加いただき、会場は、地域のコミュニティセンターをお借りして実施しました。

1枚めくっていただき、2ページをご覧ください。

1回目のワークショップでは、「公共交通の現状を学ぼう」、として、富津市の公共交通の現状、移動手段確保の現状と課題、竹岡地区の公共交通の現状について、市から説明しました。

その後、テーマを3つに区切り、

テーマ1「日常の生活実態・移動実態を振り返ろう」、

テーマ2「日常生活における移動の困りごと・ニーズを考えよう」、

テーマ3「竹岡地区で真に必要なと思える公共交通を考えよう」、

この3つのテーマに区切り実施しました。

3ページから7ページまでは、A班、B班の2班に分かれて実施した意見をまとめたものです。

8ページをご覧ください。

2回目のワークショップでは、新たな移動手段として、NPO法人わだちの公共交通空白地有償運送が開始されることから、竹岡地区公共交通空白地有償運送の概要」を市からご説明いたしました。

その後、テーマ1として、公共交通空白地有償運送サービスの良い点や、もっと良くする方法を考えました。

テーマ2として、利用を増やすために地域で実践できる取り組みを考えました。

9ページから13ページまでは、出された意見をまとめたものです。

2回とも、テーマについて出し合った意見を、各班でワークショップの最後に発表していただきました。

また、第2回のワークショップ終了後、アンケートにご協力いただきました。集計結果は、17ページ以降に添付しています。アンケートでは、自由記載でいただいたご意見について、今後のワークショップに活かしていきたいと考えております。

続きまして、資料2の1枚目をご覧ください。

A4サイズの1枚、こちらが、事業評価に関する規定の様式です。

委員の皆さまには、事務局作成の評価案を、富津市地域公共交通会議の評価とすることとしてよろしいか、ご確認をお願いします。

協議会名、富津市地域公共交通会議

評価対象事業名、地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要、②事業実施の適切性、③事業の今後の改善点について、記載しています。

①の事業の結果概要の内容としまして、

公共交通総合マップの作成

鉄道、フェリー、高速バス、路線バス及びタクシーの運行並びに乗り継ぎのモデル及び公共交通の利用方法の説明を掲載する公共交通マップ原稿を作成しました。

公共交通マップ印刷の後、自治会協力による配布並びに市広報の配布協力がある公共施設、商業施設及びコンビニエンスストアにて配布の予定です。

続いて、ワークショップの開催

公共交通空白地域を有する竹岡小学校区において、公共交通の現状に関する理解を深め、地域にあった移動手段を考えるワークショップを開催しました。

また、参加者に行ったアンケートでは、満足度の高い結果を得られました。

1回目が、平成30年11月17日(土)

	<p>2回目が、平成30年12月15日（土）の計2回実施し、1回目11人、2回目9人、延べ参加人数は20人でした。</p> <p>続いて、協議会開催</p> <p>本日、計画に基づく事業評価を実施するため、富津市地域公共交通会議を開催しました。</p> <p>次に、②の事業実施の適切性ですが、左側にアルファベットのA、これは、事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された場合の評価です。</p> <p>事業実施の適切性は、事業期間は3月までですので、今後、印刷、配布となりますが、申請したスケジュールどおり進んでいますので、「事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。」といたしました。</p> <p>最後に、③の事業の今後の改善点ですが、</p> <p>公共交通マップは、各交通機関のダイヤ改正等により、適宜更新します。</p> <p>ワークショップは、参加者アンケートで意見のあった内容を基に、富津市地域公共交通網形成計画で地域と連携して移動手段を研究、導入するエリアとした、各地域における実施方法を改善します。</p> <p>以上で事務局の説明を終わります。</p>
小泉会長	事務局の説明について、ご質疑等がございましたら、お願いします。
藤井委員	<p>内容は良いと思っておりますが、地域公共交通会議として行った調査事業として、先ほど議論していた交通空白地域の有償運送、これは前回会議で議論していますが、そういったところが調査検討業務といった位置づけの中で、一つ動き出した事業として書き込む必要性が有るのか無いのか、その辺を事務局はどう考えたのか。</p>
事務局	<p>今回の調査事業は、竹岡地区でワークショップを実施することを決定した後に、テーマとして、公共交通に関する理解を深める、ということが一つと、もう一つは地域にあった移動手段を考える、ということで事業を計画しました。</p>

	<p>この事業計画と同時期に、空白地有償運送の実施の話が出てきましたので、地域にあった移動手段を考えるにあたり、具体的に交通空白地有償運送をテーマとしたところです。</p> <p>記載内容については、公共交通に関する理解を深めて、地域にあった移動手段を考えることを2回の開催の中で、勉強会形式で参加者に発言していただくというワークショップを実施し、参加者に発表していただきましたが、大きく会の中で、結論を出したというところまでは実施していませんので、記載内容としては、移動手段を考えるワークショップとしたものです。</p>
藤井委員	<p>意味はわかりましたが、そもそも網形成計画の中に、交通空白地域を色々な交通手段の中から地域にあった移動手段を考える、といったことが富津市の計画に入っていたと思います。</p> <p>その中では、竹岡という地区での一つの方向性を先行事例をベースに調査した、ワークショップを開いた、ということで、これは全然問題なく良いと思いますが、もう一つ、この検討をしている際に、ワークショップが調査業務の位置づけとなっていますが、NPOで動き出したものが、ある意味、別の事業として実施されたものが組み込まれたのだと思いますが、そういったものも網形成計画の位置づけの交通空白地域で起きた一つの改善課題の取組であるということで、こういうことを書き込まなくて良いですかという趣旨だったのですが。</p>
事務局	<p>ご意見のとおり、10月に空白地有償運送の協議が調い、現在運行していますので、その記載を追加する形で修正します。</p>
小泉会長	<p>資料2のワークショップの内容に具体的に、1項目追加することですか。</p>
事務局	<p>ワークショップの内容に追加します。記載内容は、事務局で公共交通空白地有償運送を実施したということを追加したいと考えています。</p>
藤井委員	<p>内容については、適宜に。国土交通省に提出する事案の中で、制約があるというのであれば別ですが、せっかく富津市で動いて、事業として実施して、今後は正式な運行になりますが、実証運行の中で調査業務の一環としてやったものなので、そういったものを前向きに出していった方が良い気がします。</p>

小泉会長	<p>他にご質疑、ご意見はありますか。</p> <p>ご質疑等がないようですので、議題の2地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について、事務局作成案を藤井委員からご意見のあった内容を一部加えるということで、賛成の方は、挙手をお願いします。</p>
委員	<p>【挙手全員】</p>
小泉会長	<p>賛成全員で可決されましたので、事務局は所定の手続きを進めるようお願いします。</p> <p>以上で、本日の議事は全て終了しました。</p> <p>4 その他</p> <p>その他として、委員の皆様から、何かありますか。</p>
藤井委員	<p>私は、前回会議を欠席しましたが、議題1の内容について、前回色々な意見が出ていましたが、その中で実証運行については、公共交通空白地有償運送で行うということになりました。</p> <p>この方法は、地域に核があれば成り立つ話ですので、そういったことを進めていくのは良いことなのですが、前回会議で懸念されていた費用面や色々と指摘がありました。</p> <p>有償運送でやる意味といったところでは、利用者に対して継続できる事業かどうか。それを採算ベースで見るのか、あるいは持ち出しベースで見るのか、ということについて相当議論されていたと思いますが、特にこの地域の中で実証運行を竹岡地区を一つのエリアとしたことで、将来的に全エリアに展開するような視野も持っているということで、その時に既存の公共交通との競合という点について、どう考えていくかは、どこに行っても関連してきます。</p> <p>その時に、今回の運送の経路についてもダイヤ表を見ても、定時運行型で地域のニーズに合うのかどうか。</p> <p>議題1の説明では、現在、20日間で40人、1日2人ずつ位の利用ということで、どちらかというところだとデマンド型の対応で充分賄えそうな運用、それを定時定路線といった形で考えていくと、予約型ということであれば、予約がなければ走らないということが成り立つのですが、定時定路線型の場合は、人と運賃を抱えて、持続できなくなってしまう。こういったものが非常に多い。</p>

事務局	<p>自主運行といった点でみると、安全な運行管理ができるかといった点については、福祉有償運送も実施されているので、管理体制というのは、これまでの国土交通省含め、運輸支局の指導の中でできているので、そういう心配は比較的少ないだろうと思いますが、形態としてどこを目安にしていくのか。</p> <p>ワークショップの結果を見ても、1回500円は高いという意見も出ている。そういった時に、市として公共交通を軸線として考えていった時に、自主有償運送型の方に全面移行する形で考えていくのか、若しくは、ここにはタクシー事業者もいますので、タクシーを活用する形でエリアを分けていくのか、そのように、差別化を図っていった使い方をしていかないと、オールマイティに自主有償運送事業は成り立たないというところがあると思います。</p> <p>特に、今後福祉の面で、福祉有償運送の登録者がそれほど多くないので、おそらく交通空白地有償運送で賄えるような運用になると思うのですが、地域の方々の福祉有償運送の登録者が増えてくると、一般利用客に心配、通常の要素として利用できる機会といったものが少しずつ変わってくる可能性がある中で、そういったところを事務局としては、実証運行が昨年からは始まったということで、実質4月までは三か月間位ですが、その時にどういった運行をしていたか、先ほどは人数だけの話ですので、例えばどの地域に住むどのような人達なのかを含め、どういう利用パターンなのかということも丁寧に把握していかないと、1年で打ち上げ花火のように終わってしまう可能性もありますので、そういった面では、公共交通が出ているところまで最低限繋ぐといった色んな方向性が出てきますので、ぜひその辺を調査していただきたいと思います。</p> <p>せっかく地域の種が動き出したので、これを潰す手は絶対にはないので、これをうまく育ててあげないといけない。育てるためには、やはり疲弊してしまっただけではいけないので、だからといって市は補助金だけ出せば良いということでもないと思います。</p> <p>やはり公平な負担分で賄わないといけない。今回は特に福祉有償運送とも絡みでやっていますので、その差別のところをどうするのか。公共交通で考えるときの位置づけで、ぜひ検討していただけるとありがたいと思います。</p> <p>いただいたご意見については、事務局としても課題と考えていたものを指摘していただいたと思います。</p>
-----	--

<p>藤井委員</p>	<p>竹岡地区で始まった公共交通空白地有償運送は、まだ実証運行の中ですが、ご意見のとおり、人数だけではなく、対象者と利用法、利用者の声を聴いて、検証して行きたいと考えていますし、藤井委員からは富津市の公共交通全体に係る課題を挙げていただきました。</p> <p>また、この地域では平成32年に小中学校統合もあり、これに伴うスクールバスの運行もあります。</p> <p>そういったところで、改めて、公共交通のあり方、先ほどタクシーの話もありましたが、タクシーの利用促進についても考えていますので、複合的に考えて、どこに持っていくのかということを考えていかなければならないと考えています。</p> <p>スクールバスの話がでましたので、これに関連しまして、現在君津市では、スクールバスの運用が学校の統合に伴い動き出しまして、それに合わせた形で子ども達の移動手段を確保する。これが動き出しています。</p> <p>それは、公共交通が使いづらい部分もあるけれども、公共交通が有る地域でスクールバスが動き出すといった時に、将来どういう方向性で公共交通を担っていくのかということが、今君津市の中でもありますので、君津市の鈴木委員も出席していますので、その辺りを上手く情報共有していただければと思います。</p> <p>全国的には、スクールバスをスクールバスだけで活用するのではなくて、もっと一般化して行こう、と言うのも、運転手の確保が非常に難しい状況にありますし、子ども達が使う時間帯が非常に限られることもあって、その限定された中で、地域が使える方策はないかということで、全国では色々な事例があります。</p> <p>子ども達が使っている朝7時、8時、帰りの時間帯の4時位、これ以外の時間帯はコミュニティが使うといったこともあります。</p> <p>あるいは、近くだと千葉では数件実施していますが、一般混乗化といったところに組み込んだところもあります。</p> <p>ただ、スクールバスという名称が付いた段階で、保護者の方は子ども専用というイメージを持ってしまう方がいるので、一般混乗は難しくなってしまうのですが、市原市などでは、学校統合の時に、スクールバスという運用をしないで、一般の路線バスのダイヤを子ども達限定に切り替えたということで、一般バスの中で子ども達のスクールバス利用を促進するという運用をしている。やはり公共交通の機軸となっている路線バスをいかに残すかという考え方もあるし、あるいは、国土交通省ベースではなく、文部科学省からの対応として子ども達の移送を</p>
-------------	--

	<p>考え、その中に地域の足を組み込む。その両面が色々と課題があるし、それが合う地域なのかということも問題だと思います。</p> <p>君津市で、色々と調べている中で地域のコミュニティがしっかりしているところは、地縁、血縁といった形の中で、子どもと近くに住む大人と一緒に乗っても大丈夫という地域性を持っているところであれば、スクールバスに対する意識は共有されるが、それ以外の地域では中々難しいこともあります。</p> <p>ですので、これからスクールバス事業が動いてくるとすると、教育委員会と公共交通をどう位置づけるのか、両方協議をしていく。この時に厄介になってくるのが、子ども達が毎年1年ずつ学年が上がってくると、住まわれている家のパターンが若干変わってきますので、そういったところを公共交通としての利用が追随できるのか、そういった点を長い期間で、フォローアップしなければならない。</p> <p>そういった面では、公共交通は5年位の計画事業として流れているので、そのスパンの中で、繰り返し、教育委員会で考えている移送を公共交通と連動していくことができるのか。そういったところを併せて検討していただけると良いと思います。</p> <p>どちらが主導をとるということではなくて、地域の中の人達の思いがどうかであって、その時に、慣れ親しんだ自家用車から転換するという事は難しいので、そういった中では、今回自主有償運送で、説明会に地域の方がたくさん集まったという話がありましたが、そういった人達が、どう利用者として乗ってくれるのか。ということが一つ参考になると思いますので、調べた結果の中で、本当に潜在的な需要が顕在化するのか、といったところで、成り立つかどうかも見極めながら、検討していくと良いと思います。</p> <p>これだけ、市の職員たちでワークショップを開いて、地域のニーズを探るということをやっていますので、決してできないということはないと思いますので、頑張ってください。</p>
小泉会長	他にありますか。
成田委員	千葉県バス協会の成田です。
	<p>富津市公共交通ニュース vol. 3 (11月号) の記事にある、路線バス乗り方教室の開催で、生徒へのアンケートでも路線バスに乗って、大変良い結果が出ていますが、公共交通網形成計画も見たところ、今後も、路線バスの乗り方教室を考えていると思いますが、展開の方向性やバリ</p>

事務局	<p>アフリーの概念を入れるのかどうか、何か乗り方教室で事務局が考えていることについてお聞きしたい。</p> <p>路線バス乗り方教室で、今後子ども達に伝えていく内容をどのように改めていくのかという趣旨でよろしいですか。</p>
成田委員	<p>改めるということではないですが、今後こうした乗り方プラス、バリアフリーもやるのか等の何か考えの向きがあるのであれば、聞きたいということです。</p>
事務局	<p>今回開催した教室の中でも、バリアフリーの点では、スロープつきのバス車両を使用しまして、ニュースの記事には掲載されていませんが、子ども達に車椅子でバスに乗車していただいて、バスにはスロープが収納されていて車椅子でも乗り降りできるということを説明しました。</p> <p>後ほどご説明することを考えていましたが、富津市公共交通ニュース vol. 3 (11月号) の裏面をご覧ください。</p> <p>裏面には、教室の主な内容を掲載していますが、交通安全の視点として、バスの死角、バスの付近では遊ばないようにということと、歩道にいるときも内輪差に気をつける。その他この間にパネルを使って、バス運転手から見えない位置や、スロープを使って車椅子の方でも乗り降りできる、ということをお話した上で、最後に、実際にバスに乗ってみるということで、乗車券の取り方等を説明しました。</p> <p>今後ですが、教室を開催した後に、先生から、「こういった点に気をつければ子ども達にわかりやすいのではないか」、といったアドバイスもいただきましたので、そういった点を踏まえまして、ご協力いただいている日東交通の担当の方と調整しながら、より良い方法を検討して行きたいと考えています。</p>
成田委員	<p>竹岡小学校以外にも広げていくということで良いですか。</p>
事務局	<p>今回の竹岡小学校の開催にあたっては、昨年の時点で教室を実施可能な学校について照会した結果実施したもので、竹岡地区に事業が集中していますが、今後は、学校と調整しながら実施希望のある学校で来年度も実施していくということで、日東交通と話しています。</p>
小泉会長	<p>他にありますか。</p>

加藤委員	<p>日東交通からですが、3月9日の土曜日に、イオンモール富津で、日東交通のバスフェスタを開催します。</p> <p>イベントでは、先ほどの記事にあったものではありませんが、乗り方教室ですとか、路線バスに乗って洗車機体験ですとか、そういったことを含めて、子ども達にバスに馴染んでもらう、その他物品販売等も含めて開催しますので、お知らせします。</p> <p>もし、お時間のある方は、来ていただければ、また、広めていただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
小泉会長	<p>他にありますか。</p> <p>無いようですので、事務局からありますか。</p>
事務局	<p>事務局から報告事項が3点あります。</p> <p>1点目、公共交通ニュース11月号と1月号についてです。</p> <p>11月号では、前回会議でご審議いただきました、公共交通空白地有償運送の実施と、10月に竹岡小学校で開催しました、路線バス乗り方教室について、1月号では、上総湊駅について、タクシーの配車開始と駅で定期券が購入できるようになったこと、竹岡駅をスタート地点とする駅からハイキングのお知らせ、竹岡地区で開催したワークショップの様子を掲載しています。</p> <p>このニュースをご覧になった方から、上総湊駅のタクシー配車時間のお問合せが事務局にあり、また駅からハイキングについて、市の観光協会にお問合せがあったと聞いております。</p> <p>2点目、竹岡小学校の路線バス乗り方教室のアンケート結果についてです。</p> <p>公共交通ニュースの11月号をご覧ください。</p> <p>10月25日、竹岡小学校において、全校児童43名を対象に行いました。</p> <p>実施内容は、運転席からの死角や内輪差など、バスに乗車していないときの危険性の説明、実際の路線バスを使用し、バスの乗り方と降り方について説明を行いました。</p> <p>続いて、竹岡小学校路線バス乗り方教室アンケート結果をご覧ください。</p> <p>教室終了後に行ったアンケート結果では、理解度、満足度共に良いという回答が得られました。</p>

<p>小泉会長</p>	<p>また、後日竹岡小学校で先生から見た改善点等についてご意見をお伺いしたところ、竹岡小学校では、遠足の際に、路線バスを一部利用しているということで、乗車体験ありの回答が多かったことや、児童が、実際の道路でのバスの危険性や乗り方などを意識できるよう、白線等で道路と歩道の境を表示したほうがわかりやすい等のご意見をいただきました。</p> <p>3点目、竹岡地区で開催された駅からハイキングについてです。 ハイキングコースのチラシをご覧ください。公共交通ニュース1月号にも掲載していますが、1月19日から21日までの3日間の開催で、竹岡駅を出発して上総湊駅までの約9kmを歩き、コース上の寺社、景勝地等、話題のスポットを巡るハイキングのイベントです。 開催にあたっては、JR、市の観光協会事務局だけでなく、地域の皆さまにも、受付等のご協力いただきました。 3日間の開催で約730人の参加があり、私も一参加者として初日に参加しましたが、初日の19日は354人の参加があり、駅からハイキングのスタッフの方に参加状況を聞いたところ、想定よりも多くの方にご参加いただいているとのことで、スタッフの方も驚いているようでした。 また、コース沿いの商店等にお聞きしたところ、参加者の方が竹岡グルメを味わう、お土産を購入する等の経済活性効果があったことも聞いています。 以上で報告を終わります。</p> <p>事務局の説明について、ご質疑等ありますか。 無いようですので、その他について終了します。</p> <p>以上で、本日の案件は全て終了しました。 円滑な議事進行にご協力を頂きありがとうございました。</p> <p>以上で会議を閉会します。</p> <p style="text-align: right;">(終了時刻 午後4時8分)</p>
-------------	--

以上